

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語科	○「話すこと・聞くこと」や、「書くこと」において、目的を意識して、大事なところを捉えて聞き取ったり、相手に自分の思いや考えを分かりやすく伝えたりすること。 ○「読むこと」において、場面と場面のつながりを意識したり、具体例を比較したりしながら、登場人物の変容や筆者の考え、段落の要点を正確に読みとること。また、読み取ったことや自分が考えたことを、言葉で伝え合い、考えを広げていくこと。 ○漢字の習得に個人差が大きいこと。学習した漢字を正しく読み書きできるようになること。	○聞くことについては、聞き取った後に要点を確認する時間を設ける。話すこと、書くことにおいても、話題の中心は何か、伝えたいことは何かをはっきりとさせる。また、目的を明確にし、相手に伝わるか、自分だけではなくペアやグループで確認するようにする。 ○表にまとめて内容を整理させたり要約をさせたりするなど、場面を捉えやすくする。自分の考えを整理する時間を確保し、交流する場を設定する。 ○既習の漢字を使う機会を意図的に増やし、学習した文字の習熟を図っていく。
社会科	○地図帳やグラフ、絵、写真など様々な資料の扱いに慣れ、資料から様々な視点で事象を読み取ること。 ○調べたことをもとに、自分の考えをもち、その考えを分かりやすくまとめたり、友達に伝えたりすること。 ○学習内容と自身の生活をつなげること。	○一つの資料を全体で読み取る際には、様々な視点で読み取っている児童の考えを全体で共有していく。 ○単元計画を立てる際に、課題をはっきりさせ、自分の考えをもてるようにする。自分の考えをまとめる時間を十分に確保し、伝え合う時間を増やす。伝え方とまとめ方のよい例を提示する。 ○学習したことについて、その特色や自身の生活とのつながりを考えるための学習活動をしたり、発問を工夫したりしていく。
算数科	○自分の考えを、図や式、言葉と関連付けて表現すること。 ○立式や計算の仕方を考える時、自分の考えや友達の考えを比べ、多様な解決方法があることを受け入れること。 ○重さや長さ、かさの小数を用いた単位変換について理解すること。 ○正しく計算する力に個人差があること。	○自力解決前に解決の見当を付けさせることで、自分で考えるための基盤を整備する。めあてをよく吟味し、何を考えさせるのか意識させる。児童が自分の考えを書く時は、式だけでなく、言葉と図もかくように指導する。 ○ペアやグループで説明する時間を十分に確保し、友達の考え方の似ているところや違いを見付けられるように指導する。 ○図や具体物を用いることで、数値を機械的に操作するのではなく、数量感覚を養う。 ○日常的に1分間計算などを取り入れ、定着を図る。
理科	○学習問題を立てることはできるが、観察・実験によってどのようにその問題を解決するかといった見通しをもつこと。 ○観察・実験の手順は理解しているが、目的に即した観察や測定ができず、単なる作業になってしまうこと。 ○観察・実験で得られた事実をもとにして考察を行う際、筋道を立てて自分の言葉で説明すること。	○児童が主体的に問題解決の方法を考えられるように、予想とその理由を明確にし、観察・実験計画を立てる場面を丁寧に設定する。既習内容や生活経験との関連を意識させながら助言を行う。 ○観察・実験のねらいを明確に伝え、どこに着目して観察するのかを事前に共有することで、課題意識をもって活動できるようにする。 ○結果と考察を区別して記述する場面を設けるとともに、友達との意見交流や全体でのまとめの場を通して、事実に基づいた論理的な説明の仕方を身に付けられるように指導する。
音楽科	○技能の個人差を吸収するような個に応じた指導を工夫すること。	○視聴覚教材を効果的に取り入れたり、友達の演奏を聴いて感想を伝え合ったりする機会をとり、児童がすすんで表現してみようとする雰囲気を作る。 ○ICT 機器や教材の活用の仕方を工夫する。例えば、練習用動画や楽譜を活用したりする学習を同時進行で行う。また、一人一人の課題を変えるなど、個に応じた指導の充実を図る。
図画工作科	○テーマに合わせてイメージを広げること。	○様々な表現方法を体験させ、表現の幅を広げ、どの児童もつくり出す喜びを味わうことができるよう指導する。導入で ICT 機器を活用して動画や画像、または教師がつくっている様子を実際に見せ、表現方法のイメージをもちやすいよう指導する。また、個別に支援を行う。

体育科	○すべての児童が積極的に意見を発表すること。 ○運動の内容によって、児童の意欲が低く、活動に対して受動的になること。	○取得させたいポイントや技などを分かりやすく提示する。また、一人一人に役割を設定し、全員が学び合いに参加できるようにする。 ○意欲的に取り組めるような場づくりや授業づくりを行う。
外国語活動	○習熟度によって、学習意欲に違いがでること。教師は、さらなる児童理解に努め、児童の既習内容や習熟度に合った授業展開をしていくこと。	○語彙力強化を狙いとしている活動では、教師はデモンストレーションを行いながら短時間で簡潔に児童に説明ができるよう工夫をして、児童が伝えたい内容を整理する時間が作れるように努める。児童の伝えることへのハードルを下げられるように、発問の仕方を工夫する。
道徳	○教師が価値に迫る発問について吟味し、児童の実態に合わせた授業を構成していくこと。 ○児童自身が、価値を一般化して日常生活に活かすようにすること。	○日頃から児童の実態について共通理解を図るために、学年内の担任が单元ごとに授業を行うクラスをローテーションして指導をしている。 ○学習の後半に振り返る時間を設け、学習内容と自分との生活をつなげられるようにする。また、価値を意識した振り返りができるよう、ペアやグループなどでの話し合いを有効に活用する。
総合的な学習	○「情報の収集」の段階で、漫然と調べ学習を進めることがないように、興味、好奇心を引き出す工夫をすること。 ○「まとめ・表現」において、これまでの活動をまとめる方法や発表する方法が、固定化していること。	○「課題の設定」の段階で、学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫することで、児童が課題意識を明確にもって学習できるようにする。また、教師は、探究学習となるよう单元指導計画を綿密に作成する。 ○ゲストティーチャーと連携を図ったり、教師から方法を提示したりして、方法のバリエーションを増やしていく。